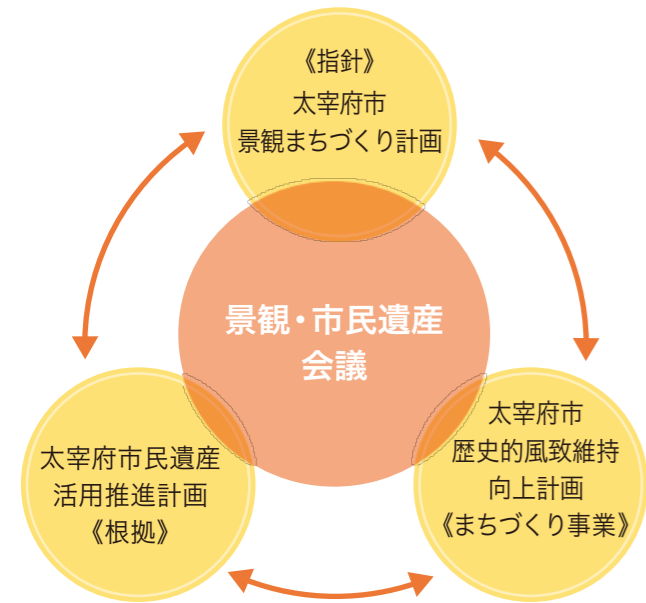


## 太宰府市民遺産とは

市民が「未来の太宰府に伝えたい」と思う太宰府固有の物語と、関連する文化遺産、そして物語を伝える活動（育成活動）とを合わせて『太宰府市民遺産』といいます。



### ●太宰府の景観と市民遺産を守り育てる取り組み

市では、平成 22 年に「太宰府の景観と市民遺産を守り育てる条例」を設け、景観計画に基づく地域の良好な景観形成と、市民主体で地域のたからを守り伝える活動を行政・市民・事業者の三者協働で支えるしくみ「太宰府市民遺産」の取り組みを進めています。「景観・市民遺産会議」は、市民・行政・事業者の三者で構成される協働組織で、会議に提案され、認定された太宰府市民遺産は、これまで 12 件になります。

### ●景観・市民遺産会議の構成メンバー

太宰府観光協会、太宰府市自治協議会、太宰府天満宮、商工会（観光・商業・工業）、有識者、太宰府市（建設経済部・教育部）、景観・市民遺産育成団体（現在 15 団体）

## 太宰府市民遺産認定に関する指標

太宰府市民遺産は、景観・市民遺産会議の納得をもって認定されます。納得のための目安として、以下の指標が設定されています。

### ①伝えたい太宰府固有の物語である

- ・将来に守り伝えていきたい物語が、地域の人々や市民が共有でき、納得できるものである。

### ②物語が、文化遺産で構成されている

- ・物語が、文化遺産で構成され語られている。

### ③文化遺産を保存活用する活動である

- ・自立的かつ継続的な活動である。
- ・文化遺産の育成にふさわしい活動である。

## これまでに認定された太宰府市民遺産



■問い合わせ先：太宰府市教育委員会文化財課 または 太宰府市都市計画課  
〒818-0198 太宰府市観世音寺 1 丁目 1 番 1 号  
☎ 092-921-2121 内線 472(文化財課)・424(都市計画課)

■市民遺産会議ホームページ  
<http://www.市民遺産.jp>



# 第7回 太宰府市景観・市民遺産会議 - 市民交流会 -

太宰府の景観と市民遺産をちょっと詳しく知る一日です

平成29年3月18日(土)

## プログラム

### ■午前の部

### 景観・市民遺産を歩く① 「第3号 かつてあった道 四王寺山の太宰府町道」

8:50 集合：太宰府小学校正門前の大町公園（8：50）  
歩く コース：太宰府小学校（9：00 出発）～ 四王寺山の太宰府町道 ～ 太宰府館（12：00 着）  
12:00 解散：太宰府館

### ■午後の部

### 観る・知る・歩く 景観・市民遺産 会場：太宰府館 3階まほろばホール

12:30 開場  
13:00 開会  
だざいふ景観賞  
◎第3回表彰式  
13:30 太宰府市民遺産  
観る 紙芝居  
『かるかやのせき 石童丸ものがたり』  
(かるかや物語を伝える会)  
13:50 「太宰府悠久の丘」の活動報告 (公益財団法人 太宰府メモリアルパーク)  
知る 「木うその世界」 (太宰府木うそ保存会)  
「朝堂が歩いてきた道」 (NPO 法人歩かんね太宰府)  
15:15 歩く 景観・市民遺産を歩く② 「参道界限を歩く」  
17:00 終了 ※タイムスケジュールは、当日の進行状況によって変更となる場合があります。

太宰府市民遺産  
パネル展  
太宰府館 2階にて、  
開催しています。



紙芝居

## 『かるかやのせき 石童丸ものがたり』 育成団体：かるかや物語を伝える会

観る

太宰府市坂本の関屋には、古代から中世にかけて苧萱の関跡があったと伝えられています。現在石碑があるのみですが、この関跡には、関守であった加藤左衛門尉繁氏（苧萱道心）とその息子の石童丸（石堂丸）との悲話が残されています。

会では、この悲話を「かるかや物語」として、小さな子どもたちにもわかるように紙芝居を制作いたしました。絵は筑陽学園デザイン科の学生に描いてもらい、説明文は高瀬美代子さんに作って頂きました。



平成 27 年度認定 太宰府市民遺産の育成活動報告

## 市民遺産第12号 「太宰府悠久の丘 ～メモリアルパークからの眺望～」

知る

育成団体：公益財団法人太宰府メモリアルパーク

「太宰府悠久の丘」は、太宰府メモリアルパークにある「大宰府の丘展望台」「夫婦桜展望台」からなる眺望点で、太宰府から福岡平野を見渡すことができます。

市民遺産の育成事業としては、展望台に市民遺産看板や幟、ベンチなどを設置し、歴史や文化を感じる取り組みとして「大宰府の丘展望台」に歴史年表看板を設置しました。これにより眺望の中に存在する悠久の時の流れを感じて頂きたいと考えております。

そして、8月15日には、大宰府の丘展望台の夜間開放とライトアップを行い、日頃見て頂けない夜景の解放も行っております。今後もSNSなどを利用した情報発信を行い、多くの方々にご来園頂ける様な育成活動を行って参ります。



## 「木うその世界」 育成団体：太宰府木うそ保存会

知る

年のはじめ、正月7日に太宰府天満宮で行われる鸞替神事。その時、参加者が持ち寄るのが「木うそ」です。太宰府天満宮発祥の鸞替神事と木鸞は、江戸時代後期の文政二年に大阪の天満天神、文政三年に東京の亀戸天神に伝えられたことを期に、全国に広まりました。現在、福島県から熊本県まで約70箇所の天満宮などで鸞替神事が行われていますが、神事のやり方も木鸞の姿かたちも千差万別……。そんな知られざる木鸞の世界を、太宰府木うそ保存会広報部鳥がご紹介いたします。



## 「朝堂が歩いてきた道」 育成団体：NPO 法人歩かんね太宰府

知る

明治30(1897)年に博多で生まれた富永朝堂は、大正4(1915)年に上京し、彫刻家山崎朝雲を師事、戦時中に太宰府に居住してから昭和62(1987)年に亡くなるまで、多くの作品を製作し、「木の中に棲む作家」と言われました。また、都府楼跡近くの住居兼アトリエ「吐月叢」を拠点に、地元の太宰府や筑紫地区の芸術活動にも多大な功績を残されました。

今回は、作品に込められた思いやエピソードを交えながら、息子からみた親父「朝堂」について紹介します。

